

レファレンスコーナー

県立図書館に寄せられたレファレンスの事例を紹介します。



Q アンコール・ワットに日本人が書いた落書き（墨書）があるというが、誰が書いたのか知りたい

〔回答〕

最初にアンコール・ワットをキーワードに関連資料を確認したところ、寛永9年（1632）熊本藩主加藤清正の重臣森本儀太夫の息子・右近太夫一房が、十字回廊（プリア・ポアン）と呼ばれる場所の柱の1本に墨書きを残していることがわかりました。

当時、アンコール・ワットは「東洋のローマ」と呼ばれ、渡航する日本人はこれを釈迦が昔修行した祇園精舎の跡と勘違いしていたようです。このように、仏教の聖地として近隣アジア各地から遠路はるばる参詣者が訪れていたことから、森本右近太夫一房も同じような目的でこの地を訪れたのかもしれない。字句の5分の4はもう肉眼では読み取ることができない状態の墨書きの文面には、朝鮮の役で勇戦して亡くなった父儀太夫の菩薩を弔うために仏像4体を奉納する、という内容が残されています。このほか、森本右近太夫一房についての詳細は確認できませんでした。

調査を進める中で、森本の墨書きを含めて、合計14の日本人による落書きが発見されているようですが、現在ではほとんど失われているようです。

キーワード：アンコール・ワット 墨書き 加藤清正 森本右近太夫 一房

〔調査プロセス〕

1. アンコール・ワット関連資料で、森本右近太夫一房を確認。
2. 森本右近太夫一房について、加藤清正資料で確認。
3. 併せてCiNiiで論文検索も行い、同様の内容を確認。

〔参考文献〕（ ）内は当館請求記号

- 1 『三百藩家臣神明事典 7』
家臣人名事典編纂委員会 // 編 新人物往来社 1989年 (R/281.03/サ3/2-7)
- 2 『甲子夜話 2』
松浦 静山 // 著 平凡社 1978年 (B/049/マ21/3-2)
- 3 『朱印船時代の日本人』
小倉 貞男 // 著 中央公論社 1989年 (B/081.6/チ1/913)
- 4 『朱印船と日本町』
岩生 成一 // 著 至文堂 1978年 (210.08/ニ4/2-49)
- 5 『アンコール・ワットへの道』
石沢 良昭 // 著 JTB 2000年 (223.5/イ)
- 6 『アンコール・ワット』
谷 克二 // [文] 日経BP企画 2004年 (223.5/タ)
- 7 『伝記加藤清正』
矢野 四年生 // 著 のべる出版企画 2000年 (289.1/ホ)





Q. 盛岡藩を「南部藩」や「盛岡藩」というが、どちらが正しいのか

〔回答〕

『角川日本地名大辞典 3 岩手県』p. 581「南部」には、「盛岡藩の名は居所盛岡にちなむものだが、中世以来の名族南部氏にちなんで「南部の国」「南部領」と呼ばれることが多く、現在でも南部藩と呼ぶ者が多い」とあります。『岩手百科事典』p. 557「南部藩」の項目では「盛岡藩」ともいい、とくに文化 14 年からは南部藩を盛岡藩と改めている」と書かれています。どちらの名称も同様に使われているようですが、文化 14 年に藩の名を改めたという点が気になり調べてみました。『用語 南部盛岡藩辞典』では、この改称の典拠資料として『南部史要』、『盛藩年表』が挙げられていました。『南部史要』は、明治 44 年刊行の南部藩通史で、初代南部光行から第 41 代利恭まで編年体で記述されています。文化 14 年頃の藩主は南部利敬ですので、「第三十六世 利敬公」の項目を確認したところ、p. 272 に改称の件が書かれていました。もう一方の『盛藩年表』は、市原篤焉が江戸時代後期に藩内の諸記録を編集した『篤焉家訓』に所収されており、当館でも写本を所蔵しています。しかし残念ながら、文化年間が掲載されている巻が欠落しているため、『盛藩年表』などをもとに増補改訂した『国統大年譜』を調べてみますと、改称についてほかの資料より詳しく、次のように書かれていました。

“文化十四年十一月三日

古来南部領と唱候処南部は甲州の村名に付自今盛岡を以通称すべき旨御用番阿部備中守殿へ御届”

元来、南部というのは甲州(山梨県)の地名であるから、今後は盛岡と称することを幕府へ届け出たというものです。ちなみに山梨県南部町は南部氏発祥の地といわれています。

この件について、同時代の記録として、藩家老の執務日誌『南部藩家老席日誌 雑書』も確認してみました。文化 6 年の 8 月 9 日と 11 月 11 日の項に、これまで「奥州南部〇〇」としてきたところを「奥州盛岡〇〇」と称するように通達したことが載っていました。幕府に届け出たのは文化 14 年ですが、南部領を盛岡領と言いつ改めるようにしたのはそれ以前の文化 6 年頃からのようです。

なお、「〇〇藩」という江戸時代の呼び方のように感じますが、公的に行政区画としての「藩」が使われるようになったのは明治以降で、廃藩置県まで続きました(『国史大辞典』など)。そこで、『岩手県永年保存文書目録』で明治初年頃の文書類の件名等を確認すると、やはり「盛岡藩」となっています。「南部藩」「盛岡藩」どちらも使われますが、文化 6 年頃からは「盛岡藩」を用いていたようです。

キーワード： 南部藩 盛岡藩 藩制 南部氏 南部利敬

〔調査プロセス〕

1. 『岩手百科事典』や地名辞典で概要を確認
2. 藩名改称について調べるため『南部史要』『国統大年譜抄』を確認
3. 同時代の記録の確認として『雑書』(マイクロフィルム)を調査



【参考文献】()内は当館請求記号

- 1 『角川日本地名大辞典 3 岩手県』角川書店 1985 年 (KR/290.3/カ1/1)
- 2 『岩手百科事典』岩手放送 1978 年 (915.5/マツ)
- 3 『用語 南部盛岡藩辞典』一ノ倉則文//編 吉田義昭//校訂 東洋書院 1984 (KR/205/イ1/4ウ)
- 4 『南部史要』菊池悟郎//編 1911 年 (K/201/キ1/1ウ)
- 5 『国統大年譜抄』(/08/4/156-158)
- 6 『南部藩家老席日誌 雑書』マイクロフィルム版
- 7 『岩手県永年保存文書 詳細文書単位目録』※最終確認：平成 28 年 9 月 11 日
<http://www.pref.iwate.jp/jouhoukoukai/ippan/007287.html>